西洋道中膝栗毛

作者　假名垣魯文戲著

書肆　江島萬茂閣壽梓

U 31752

西洋道中膝栗毛第九編序

假名垣魯文先醒氏。戲作に妙を尽したる。彼傳信機の機關なり。世に通商の大聲星耳。嚮に栗毛の編を次。楮幣の楮數も第九編。十偏一九が趣向に倣ふて。實地を穿つ窮眞鏡。嗚呼先醒氏の才高かゝ。氏の年階

機に従ひし脚色巧緻なれども航業の経験浅く
いまだ古きを人力車の人氣を得て今世色
の一等と称せられ僕者侯爵養子の仕社式
繫く国に於て横濱に寓居の地に数年を
経て古序文を紹介云爾

皇儀明治歌集第八月西洋紀元
一千八百七十一年九月初旬出版

南港洞本街の寓居にて序
魯文大哥の句調に倣ひ瓜弾の
肖筆式操る

仕事品く

人力車に駕籠の雛子　風呂を著て中宗弋徐徨

蝙蝠傘を三途街を歩行　氣球船に乗て天堂に遊び

地震を案内に地獄巡り　洋髪頭でかまりを正し

長皆を空に足袋を襲　楽天を呼で院本を作る

人丸を招いて歌を歌ふ　洋羊牛喰を衆童に愛し

和藤内に糸を畜いせ　福内鬼外に開墾せ

那破倫と義経を聞せ　神代字を娼妓の玉章

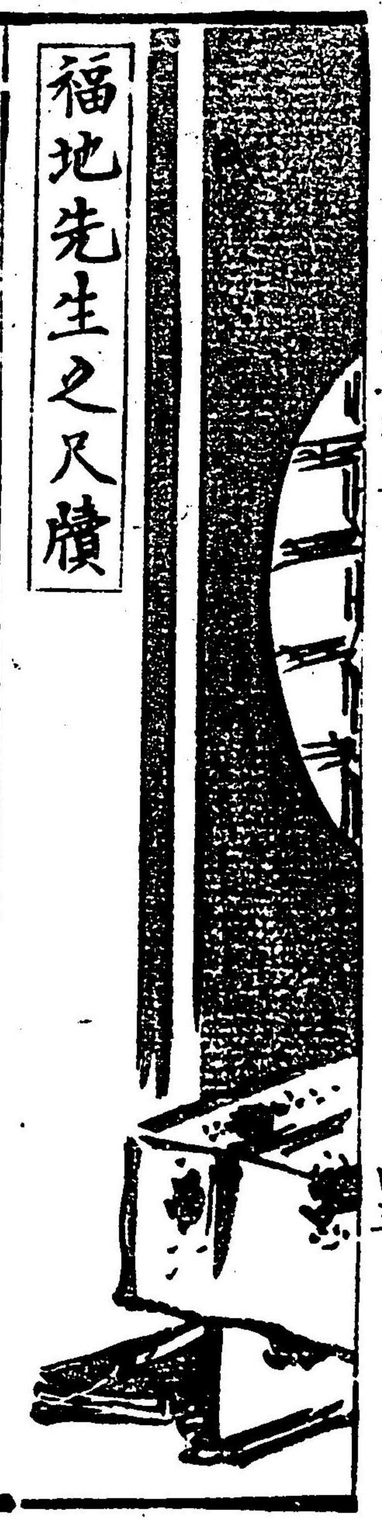
文明シヤボンで腸を洗ふ　云く

今歳の融通帳は　明治四年此日を月見

然り團子に食應を活水欲ぐ

酔を醒せし寫真狂人北庭苑久波

假名垣兄の作扯せ戯を吐



福地先生之尺牘

稗史家の脚色

一蕙齋芳幾写真

「とんぶんせんせいこの
ぢの西洋ぶりへ
つけこんでうん
ぞ同さんの
うハッ〜〜
考こう
いざぎり
まえんの仕
入ばかりまんこう
おゆりを移ひまん
「そうさこれとい仕入もうハッ
ぶいの保沢北ハッひさ〜せんで
就海ぶりのたびたりを西ぶう
どうちりひざとりげとややら

「こりやアあうでこさいまえ
ぶにまえうをさそおろそ
いろさんろう
むちろうの
ひとくしも
ちろうつた
どろろがご
ざりませんせん
ぶんどうろうさで
ゲたと移ひまん
「あアとんをひぶい
移ッぶくざいの元び
たんるのでなさたまう
ふこたつのア長ア
どうるり移成ぶり地
中ぶちいうまでのりこひどうろう

波濤萬里
山遥碧
隨之庵

猪飼蔵書

西洋道中膝栗毛九編上

東京　假名垣魯文戲著

官今の放縮ふぎんぎり天窓を敲りくるくるまべ文明開化の事がまると実ふや西洋各國と交際のうちひらけより事髪者失周循姑息ぞろり易流を長神に餘紙のうる見ふもどろ「チョッキ」「マンテル」皆「ズボン」絆天板掛殺引の使者も擾の事ぶひを二重まりの後猶び被兵咒帯ふ接ままくを者年

あのちうッぷ〜も洋語より「ちうりップ」を巻迄まれ、庭にも
高く取大洋を苦もなく航る為めぐり沖をとく
なる活計の妙法あへぬ名の国邦なき大利を変
る疫医薬義一家ぐ来紀くる博覧舎の元郷
私ハ既に亜丁を出帆して六百余里の海上を六日路
あり「スエス」ハ名せり抑此地ハ「エジプト」の南のき
ある遠海の港なり此「スエス」より「アレキサンデリヤ」迄
地ぐ百二十里ありあるを見まぐ蒸気車ゆて

一日ハ通り越せども大私い喜色を峰をぐるり廻りく
地中海ハ出るぐ由名ハその海路遠く「ポート便利
あるとなく紅海より地中海迄の掘割ハ私一脱
ハ私通行の新学を始るあぐ此所私の来
紀もなぐちハ驚色まぐ来迄ところぐまくありされ
ども「スエス」より「アレキサンデリヤ」まぐの途中ハカイロと
ゆる城下あり此来ハ古代ハ有名所四海
ときけばをまぐと見物せんものと「スエス」の港り

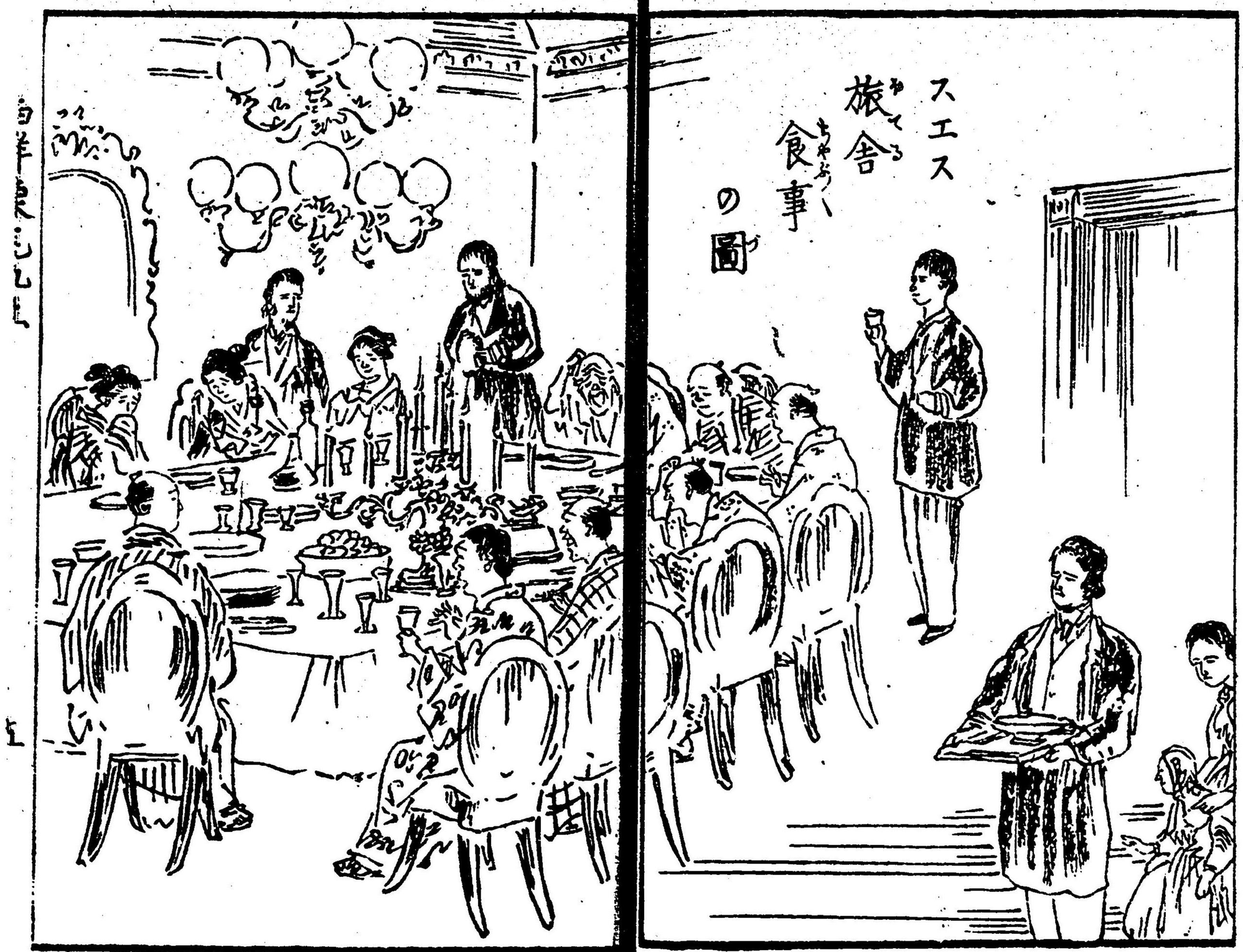
上陸するふ遠淺なれば和船の沖のまふ瀬をかりて
少船ゆくとけるをり例の浜辺の部屋方をあゆめく
石筆をとり出ペイプル洋紙ふ写なんかるまと
和船と隔たる海の遠ばり
浜の赤ばりとこゝろ白なれ
はたとうるけ難国なれば八潮をぬぐひあゆぐら
難わたその解きくまの有るまへ
こゝろ白きへかるべ

解くこゝろ多〳〵上陸して「ホテル」ふ着し日ハ外ふ
一泊一泊の日暮れ車ふ乗り「アレキサンデリヤ」をよび
途中「カイロ」の回洲を一覧のつりふ変りふ洲
北部北八里ハ廣ふ流の一羅と食るの礼量ふ
岩あゆびあゆく洋酒の「ラスコ」他利「コップ」酒盛をめぐり
あひのまきくの和変らぬ弱酒為むず言はうら
出すせ右へづのでくく食ひふゆくびて左れおるゆん「ロイル」プラデ
イシンパニ」ふのこ見あるとうるのさこを異人のきこ
ドあそこひあゆら日本人どーのもの話「ナポレオン」通さんカウあゆ
ぎうきまきそうとさ見てこゝろ

グイ〳〵巻ンぞやアねつ〳〵さろぽり鼻ぐわく西洋さろ
りの例ゐやアもぐきそゐるだらうぐ一巻はしやせう
通〳〵ヨット詠はさんのおひぼしい格別うまーくもねへぐ
杉角の巻ぐらるぐ升べいりぶ貳ぎまそべイ北〳〵ぎんぎろ
ゐるゐの巻秋のゐ部実い巻防二役巻第ゥ子作業
通ひ部ぞどゐ半ぞゐ巻ひぐ教海の教中ひけぼろのうひとそ氏詠〳〵ウム
どろのびるかゐをどきぞんぎろとゐりたまぐ八ぐまろゐゐり
そんゐ〳〵ぞづゐ工義いかまぐ中村さんの父を対まそ
むねんのう通〳〵さんぞうらう詠〳〵ちちをーりう通〳〵さんぞう

らうト摺見ぐつゐけたら役ぶそくいあるゆへが徒強ハ
一膳別巻おゐいる車の別番ゐも情とまねへうらは対
面い巻ホ赤やせう通〳〵ヨイ〳〵通〳〵さんぶ河の中
だぐ紙優い紙物ダ面ぐ飛ぐらうぐ形ぐうんゐへからうぐ
紅粉を粧ぐへからゐ鬢髪ゐ強靭をまとやアびッ
ぐう長ぞ清あきれぐおれぐヨ通〳〵アリ〳〵ゐゆへがそゆ
形ぞに白粉いのを塗ちらぐ〳〵やぞ紫を
つけりやア石鬼夜叉の絵巻物ゐる猫ゐの化物

スエス旅舎食事の圖



から弱をとらア（注）イヤもや痛い主君主死自在と
いふことを知らぬくで洋学者だとうひやうれくまと
たとうこゝろ云つくおるうちがを巳いか英ひあせくウハくく
ふ（注）あんぐまる孫痛がかりぴまくこのうへン大も食ね
へそんあ歩多いさらべ多あてかさろのの間の牡丹ふ
ちとびとか者ふ見さ死の船りる義治を出しゅとん
どうだらう子工方將ひろぎうを（注）そうサひ巳く
陽金と入レ猪くら猩やうもよさアらくがヌドリン

ケンふるつくガラス陸ふや拓盤をふこととくく
償ひをとくまるのんどあんだぜ（注）モシ。モウくかひく
印國の猪ぐ分ッたらあやアそんあぶまいもる
らんやせんまづいだしだらわハてあへ口腔をたろへ
アくてんふイあーでちうたがねへまあんこを揚むまで
あんどやうつけべいムくうット市どらくかんぐ
ありひつたくて数東西くく
ぼこまぢかく口上くく宮物どらんふ入を巳まる義治
の第い世界うえ酒市考ふ傳信機の猩ひうえ方海を

一下目ふえるるとちうのひとりどとのうちのせう
ふがてどまり〳〵アテンテチテン〳〵よいさ〳〵トもを
ながく
ばあのうちちうりとんびがるをもをのばしひっかけうりがさきをさしひば
みをもをあっちをーあらぐ〳〵ぶとしげ〳〵あひぐをれたとをふのり〳〵つる
ぶとうのかくをて
ぶりかけるアきたてんてけてん〳〵よいさ〳〵さて
〳〵ねもさいちうの雅ぶるぶ里ふとてすそれ
ぐらふ絽のあるぐ人ちよっとぶりとまをあげけて十
の字〳〵とれとうせりふヨヤ〳〵はけ下界い伯ぶだらうぐぐぶ
嬶昌ぶ浅ぐらくたいそうぶ紅ぶるーぐらえあるう〳〵

〳〵アあるーいらぐまるアメリカの死旗と申らぐ多ノ
ひらかるく〳〵はねんだ「サンフランシスコ」ぐナ家いぶ
階造り右北ぐこ十号ぶうあ六ぐ十ぶ六けんもあ
らうかねそう〳〵ヨヤ〳〵きそきぶ婦人ぐなのうれ
〳〵浅ぐらう来るのい来るをとえあるうく〳〵ヨ〳〵とのぶ家他
め来ふかく〳〵アのををひのく〳〵らやつ死ぶぐら来ぶ
をるコレやもめのめくるあるのんぐらうかぐんふえせつけ
ろヨヨットうとををくをシぐのとと縁ぐらやらけんのん

げんのん　弥「サテ〳〵さても〳〵此度の狂業ハかつたり
傘ふ身をやつし猫とところちの夕がほここれをも号
て川風さつと猫牡丹嫁の小便十八町去ィいとあさまし
れるんろうとてらでごめんをかつかり〳〵　トかさをつぼめておもてうちとびまわり
やとの陰へあちむく　北「どうとあめくうりふてます〳〵
通旅人ハまをするをみてビイルのきげんなるうきもじぶんさうかもう又ハぬぐひたおすゞつけたなどしめよひて来たら天ぞポカ〳〵たれあづらうれ
婦まの分ぶりゆく　通「サテおまわりがたいどのうくいあんなふちるぞ
らく上人内〳〵ゆうだいとゞきうほうく光花代〳〵菩提の為

あのそのために此ろのために借銭のために質屋のこめ
借たらかへきぬそのくるめふちやらんがらんの御経の
文句カ、ポコ〳〵「おやゞらきゆう引そも〳〵おもわく僧が讃
國あるぎやうの根元愚業。雑形若衆あんの目付
横浜港場の女郎が希体め文句ふそう文を安心
象毛が耀ッ〳〵目眺がやッ〳〵進上てゆぐろく瑞の
入る草食者西々を着ふからまま八業蓮華の是
ふある金でとう〳〵あげめがお茶屋も知るべも返ふ

かつぺきこと足ごらけぐ〳〵カ、ポコ〳〵ポコ〳〵あんの彼
ほかけをもちまるあらは墨國と出るけろてうど幸
使私たのこでおーたい出帆こるやこぐちらんでおらん
だ一蜜ら志やめんちらんだ彼を含ッてちらんざ牛肉
十斤こッて家こッく鶏をこッてのろまの西ゑを皮ごと
三十こッてパンの生揚うのこふろ十巻こを形のビイルを
十ゆのんぐちらんざカ、ポコ〳〵ポコ〳〵その外「ブランデ」「ワ
イン」や「シヤンパン」のむあこだぶろ〳〵のむめうちれん

げきこうく〳〵「春こぐ」あらぐるふらをこのとろとりをン
の塩辛ど名とろとりと西洋ハアコリヤ〳〵
とろとりん「ものきの書魯西」もさて亜墨利加もる車で
通あて英吉利。僕いこるわど葡萄牙。きこと
いのりでも佛蘭西ぐ。浮世の弄臘と長名。
麻を土耳其のひとろ痩。塩及ちちく
よらちやんせ。支那〳〵ととりちぐり。魯西亜
ふえくるぐ春のこもハアトツチリトン

北八
通次
廣藏
弥次

まるさん余ふお徳の文句ハ華盛頓とんにから出定易
倫敦ハくさんありまもとど巴黎斯他日のちの合ゆるりと
懐あげたぶつくく（ポケット）（ヤンヤ）（はたち弥之助の廓を取巻ふのりテイブルをたゝれ）
まんあつへ（弥）（初見）今ハ八通沢廓の女へてまぐらふの縁
ぶるり出
涙ろ恋ふるのお徳の文句縁の和田きげんふうあひほし
ひるあとく（弥）（ヤトヤ）弥之るの花入さぐ色ふ裏とへぞんし
まもれど粘床も山のあぎやヒ賀ひの色も酒裏の座
裏のよくはとろんかき車のたりそたどゆりくヨイく

お波さん一寸ちあんのからぐをかあ（ヤヤ）（弥）
さんとちきやアいやだヨまくく上海のやうな国ふあれ
ちやア大変だ子（弥）あふサくく七夜ハ極石醤だらあんな
根ねあこと云ふ（ヨマア）ちよつとだらら来てこんなふ
サぞうさうも行くことでこんナ（ト）（ヤリ）ふかくをつれ出たかを一曲
あいちのさんちをあるそもあるあるを
のあるひつたあてあちたつたやう一つふあり
ヲイお波さん云ッかり
撞をうけて足をさげくてこんなサアいろう子（ねぐる）
きくぐるの子工（弥）（ヘン）腐た鶏卵ぢやアあるめへ

きこのとりいつまでもくいねくよくふまでもぐまをぜ
ゆきの綱くあのまづまでびをゆひまを輪やまて
とまをまをぐり人力車のえくふありくけまり「ハイ」たの
どめんさい〜そらわのまをまをごめんく

（ト続どしきくテイブルの
まをまをりらるふらるふく
くふ入りどりとあるれ弥次郎ふまをげんふよをまをびよをまをづふのりそかるく〜ぱ
うもちぐーたふひきめぐらーたらフランケット上ふるまづまをまをひつまづくひをじふ
うーうのうくふあまをまをまをまをあるるかるくまをふたまるまをびは弥次郎ふ
このまをまをふあわはけふひつくりくくまをまをじうをのうくよりうをづをコップふ
くまをきあるは家のやくふゆはあまをうとまをまふひっくりくりコップのくふある
りふまをたらじ異人いかまをまをあくまをのたあふたくあんをふをつけらをウン
うあくふくあ〜ひと
たちさいぎ

「サアー」ホ弥次郎ゆるまを仕ぢじたぜわさんまく
掛あををとーねくあくらゆをまをくりをねくう「アイタ〜〜〜

日もちきやアの
つまりぐ郷さ
やうくまをうら
闘ぐあくあら

おくらを

あのうもちうやくさじておくん
あまをのヨアーダ〜〜〜週「エ〜〜氣ちふ系
をらふせあくあきねく異人ゲ
ぢううちやアあねくうウまる

弥次

ねくゼ
ちし
義さ
ちうり
でがうど
きと
ち

北「ヲヤ〳〵どうも強(ごう)く痛めくるとみへくるぜサアすこし熱(とや)る
銀銭(きんせん)く 広「ホンニ尼があたる人見(みんき)夕弥次さんりつぱんに起(おき)
ねへうト起きあがる 弥「アイタ〳〵〳〵 広「ヲイタ〳〵〳〵 異「ウ〳〵〳〵 あちら〳〵 くちやたちら
ままあやうくおひきおこしあいじの異人(いじん)ゆきつけくるそのかたのおんまつれ ものさく〳〵かまのあいたものかをのしがこまるれおくで弥次をつうき
しくさんざめのおかしきまゝく 北「コウ弥次さんおつへらぎのあぐらじをやらかし
ぜそきでつらいねへところちやアねへ外人(がいじん)のあてゞあとゞ
義美(がび)がほじいるすいよせべいつゝ鶴(う)の字をかゝらきを呑(のむ)
弥サ「あんの椅子(おき)がたをきたゝら仕損(しそん)あゝくるのでせんまト

もきやア引抜(ひきぬき)と見へがあつて後(あと)が「エレキテル」の人形踊(にんぎやうをどり)
蒸気車(じようきしや)の鉄道(てつだう)みるりとりかあるらしい座敷芸(ざしきげい)を工(し)
風して子ぞいるのぐらいでめへなんぞの出ひつたとへグット沖(おき)
とへるのんダ 北「アハ〳〵〳〵 やりそこなつてもすけをこと
うねがまらず強(つよ)くつら感心(かんしん)ダノ 通(つう)さん 通「そうサそこ
らでもわかるくッちやアかんりんきるところへねへ 弥「そ
んなことをまらからの極秘(ごくひ)珍芸(ちんげい)を出(だ)すからあ
たゞく見物(けんぶつ)ちやせく 広「ヨイ〳〵 弥次(やじ)さんモウ〳〵とれよう

卵ハ孫義ハあるあくらばらづくしいやめふしてのらひ
ませうとの上やらしたらどんゐ孫るまを引出さてう
知もやア志ねへ打蘭呑ンざる恵洋酒ゲさめて志ゐ
ッたむらしいサアくそんゐ孫るとくあらアさらく
猪もぐくト女ぢらをひろまてひろぎういねやくゐ孫ハ部ハ
あらゆふてまとまぢくまるをふハるより通ハ部と
ゐをふくくくく例のぢたらめ
まるるをひき出くたる人力車
のせられたのぐ出めんさらるん

孫ハ部陰方ゐくをほどく蔵そのロをひらきて
変あるのせるらい出方のロぐる酒
ひぐ車敬ぐ悪けりやあやまりませう
張二首ゐくく居ありせたる人くく笑ひをのようし
ッ夜も更るまでべ翌日を契りてゐゐくゐ外ハ部ふ
へふうり

○作者魯文看官ふ伏裏拙作の西洋栗毛
僥倖ふ時所ふかるひ遅くく繰編を閣筆さる

913.6
2
17

913.6-2

るゞ為ふ備書剞劂を促さ事きなから扇
を燒ゞ如し故ふ熟字の顛倒を今最後きる
ものあり書しきは第初編の下糸ある唱糸
を落し二編の凡例ある拉礫の傍訓を
とゞ編の序ある堯舜文武莽操と雖べきを
文武の二字を脱きの類ゝ余呼あゞ〳〵
酒湯のやりゞあるべ〳〵冥〳〵冥〳〵

9136
2
17.